



衛生動物だより

No.59

市民の方から、「家の中の特定の場所に糞のようなものが落ちていたが、ネズミの糞ではないか」との相談がありました。検体は全長約7~8mmでいびつな円柱型、表面は茶褐色で、ところどころに虫の破片が見られました（図1）。水で溶いて観察したところ、複眼や昆虫の毛などの構造が多数確認できました（図2）。このことから、アブラコウモリの糞であると判断しました。

アブラコウモリの糞とクマネズミの糞の違い

アブラコウモリの糞とクマネズミの糞（図3）は、ともに5~10mm前後で見た目も似ています。見分けるポイントはアルコールや水に溶いたときの様子です。アブラコウモリは昆虫食性であるために、その糞はほとんど虫体の断片で構成されています。一方ネズミ類は雑食性で、糞中に様々な夾雑物が見られます。また、ネズミ類は毛づくろいの習性があるため、糞中に多数のネズミ類の毛が見られます（図4）。

アブラコウモリの生態

アブラコウモリはイエコウモリとも呼ばれ、体長70~105mmと非常に小さな体をしています（図5）。

本種はガや翅アリなどの害虫を食べる益獣です。日没後、巣から飛び出て空中を飛び回ります。街灯など照明の周囲を飛び、灯りに誘引された虫を捕食します。

多くのコウモリは森に生息しますが、本種は人家の天井裏や高速道路の橋脚の隙間など、人為的な閉鎖空間に生息します。多いときには100頭前後のコロニーを作ります。本種の一般住宅への侵入があった場合、天井裏に糞尿が堆積し、臭いや汚損の原因となることがあります。また、出入口に使う隙間から糞を落として敷地や建物を汚します。

アブラコウモリの防除

アブラコウモリは鳥獣保護法で保護された野生動物であるため、捕獲・殺処分できません。

個人による防除は難しいですが、対策として、天井裏や倉庫に入り込んだコウモリを追い払います。夜にコウモリが外へ出ていったところを見計らって、出入口の隙間をふさぎます。同時に、ナフタリンやハーブ系の刺激臭の強い忌避剤、燻煙殺虫剤などを巣に投入します。ただし、7月初旬~8月中旬の繁殖期に入ると追い払うのは難しくなるので、できる限りこの時期を避けて作業を行うとよいでしょう。



図1：アブラコウモリの糞



図2：水に溶いた
アブラコウモリの糞 (x100)

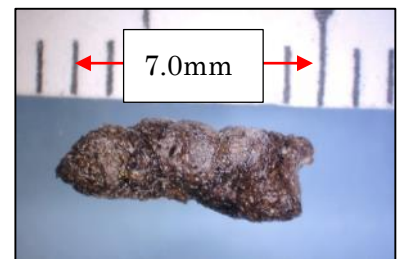


図3：クマネズミの糞



図4：水に溶いた
クマネズミの糞 (x100)



図5：アブラコウモリ